



第7回



まちづくり推進会議

平成26年1月1日発行

平成25年11月18日(月) 18:30~20:55 開催：出席委員数~28人・事務局出席者数~20人



今回の「まちづくり推進会議」では、くねっぴ静寿園増改築、旧訓子府駅舎周辺整備事業について資料を配布し説明しました。説明に対する質疑等がなされた後、まちづくり推進アドバイザー河合教授からこの6年間の振り返り、まちづくりや住民自治について講話をしていただきました。

主な意見は次のとおりです。

【くねっぴ静寿園増改築について】

委員：入所したい待機者は現在何人いるのですか。

町：待機者は60人ほどいます。ただ、とりあえず申し込んでおくという人も含めた人数です。実質的にはこのうち介護4や5で急いで入らなければいけないという人はだいたい10人前後です。

委員：その10人前後は訓子府町に施設があるということで町内の方が優先的には入れるのですか。

町：入所判定会議で緊急度等を総合的に判断し決定するので、町内だから早い町外だから遅いということになっておりませんのでご理解をいただきたいと思います。

【旧訓子府駅舎周辺整備事業について】

委員：今まで子どもたちが使っていた広場がモニュメント広場になるということですが、今回整備する公園の広場は今までどの広場の面積と比べてどうなりますか。

町：若干広くなります。

委員：バスレーンと一般レーンがありますが、バスレーンに一般車両が進まないよう防止策は考えていますか。

町：一般車両が自由に出入りできないように若干のバリケード的なものは置く予定です。

委員：ホームに現在表にはドアがありますが、裏側にもドアはつきますか。つけばすごく便利なので。

町：交流センターからホームの方に出る入口ですけど、利便性を高めるため出入り口を別につけるようにしています。

【消防庁舎周辺施設の管理について】

委員：消防住宅の建物が空いている所がありますが、火災があった時に消防団の方が駆けつけてきて、車などで混雑して危ないし、撤去したら広くなると思いますし早く整理した方がいいと感じたのですが。

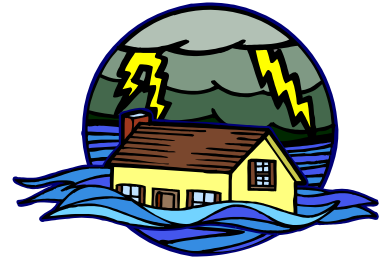
町：消防住宅のところですが、まだ消防庁舎の西側にまだ一件人が入っています。今後庁舎向かい側旧消防住宅を含め取り壊し整備する計画です。



【想定外の災害被害対策について】

委員：来年の予算関係ではありませんが、過去に経験のない想定外の大雨被害などのシュミレーションを行い、避難場所がどこになるかなどの情報提供をすることができませんか。

町：命と安全を確保、それから何か災害が起きた時は瞬時にできるだけ可能な限りその支援のために行政というのは動き回ります。関係省庁から連携をとりながら最終的には自衛隊の出動も含めて、住民の命を守るというのが我々行政の最大の使命です。自助、公助、共助でまずは自助。自分たちの町の自分たちの地域の河川などの危険な場所を知っておく必要があります。この時に自分がどこに避難したらよいか。こういうことを基本的には皆でやっていかなければいけないのが一つ。また、危険箇所についてはきっと地域の住民の方が詳しいと思います。だからそういう実践会なり地域単位で自分たちの危険なところを皆で議論する。そして最悪の場合は皆でどういう形で逃げなければいけないのかということをやらなければいけないのではないかと。この点は行政もちろん音頭をとっていきたいと思います。



◆河合教授講話

【会議の成果について】

さっきのお話を聞いていて、管理職の皆さんが全員そろっているわけですがものすごい緊張感で座っていたような気がしました。今日の質疑のやりとりは事前の質問とか道議会がお得意ですけれども、そういうことはやっていないですよ？これがいい。

そういう緊張感がこの会議の最大の特色だろうと思います。ここでのそういうやりとりが実は議会の審議にも反映されて、議会の審議の質も高まるという。また議会の話が議員さんたちの努力で皆さん方の地域に返ってくるという良い循環が生まれることが、僕はこの5年間、6年間積み上げてきた最大の訓子府の成果だと思っています。

こうしたことは訓子府の中に入ると空気みたいなもので、こういう議論の良さとかすばらしさとか実感をなかなかしにくいかもしれないけれど、お仕事で疲れて平日の夜にこうやって集まって議論ができるというのはやっぱりすごいことだろうと思います。

先ほどお話で出たハザードマップの話は行政は逃げたらいけないと思います。いざという時の問題でいくと行政がどれだけきちんと最大限の事前の努力をしたかということが問われています。

これは予防原則といいますが自然災害はあらゆる要素が重なって常に予想を超えるものが起こります。その時の要は訓子府だからできるという仕組みがある。それはこの29地区の皆さん方が集まっていることです。



訓子府のような小さくても輝く自治体と僕は言っていますけれども、こういう規模だからこそできることがいっぱいあります。29地区の皆さん方の地区から皆さん方の目と実感している危険箇所を地図に印をしたらいい。行政だって全部なんてわかりません。科学的シュミレーションも科学的なだけです。科学的というのは過去のデータを積み上げるだけです。それだって正確じゃない。

今日話があったことはものすごく良い機会なので、ぜひ

生かされて皆さん方の生活実感と行政の持っている専門性をもって共同してもう一步前へ進められるようなハザードマップと呼んでいいのか、幸せ安全安心のための第一歩の地図だとかいろいろな良いネーミングを考えてもらって、ネーミングは中学生の若い人の知恵を借りたら良いと思う。そんな地図を作ったらどうかと今日の話がうかがってつくづく思いました。

【住民自治について】

40数年間、地方自治とか住民自治とかを皆さんの方から教えてもらって勉強してきてようやくやっとたどり着いたことですが、僕は人間の尊厳とか人間を大事にするということがやっぱり当たり前のごとく一番大事だということを経験した集大成だと思っています。

少し難しく言うと人間の尊厳の相互尊重、お互いに尊重する。それは住民の皆さんとそれから行政の関係もわかりですね。平たく言うと、人は誰でも平和で幸せに生きる権利を持っているということと同時に、この権利は他人の平和で幸せに生きる権利を尊重することによってのみ成立するものです。

自分だけ良ければいいということではなくてまず自分を大事にする。まず個人です。それは個人一人ひとりに人権があるからです。しかし、その人権とか平和で幸せに生きるということは実は他人の平和で幸せに生きることを尊重することによって成立するというようなことをつくづく思いました。憲法で言う抽象的な僕は幸せに生きる権利というふうに僕の先生から教えられて、これを日常的に実践するのが住民自治だと思っています。

だから、幸せに生きる権利とか平和的生存権とか極めて抽象的で終わっていたら全然わからないわけで、それを今日のお話のような災害を通じてのこの丁々発止のやりとりだとか、特別養護老人ホームを作るときに町の税金を使うんだったら市民が優先かと言われたときに、いや、そうは簡単に行きませんよ、やっぱり基準でいきますというのが相互尊重なんです。総合的に判断してお互いさまという形で決めることが回り回って自分に戻ってくるということだろうと僕は思うんです。

皆さん方は本当に議論していて、そういうことを意識しようとしまいと文字通り今日の話はまさに政治的訓練と学習の場だと思います。これを皆さん方は見事にやられたのではないかと僕は思いました。

【都市から農村の時代へ】

19世紀、20世紀は都市の時代と言われていました。農村から都市にあこがれたそういう時代だった。明らかにこれはこの間の20年くらいで転換点を迎えていると僕は思います。ご承知のように確かに都市は経済成長の拠点としてきたから物と人が集中する場所でした。また古いしがらみからも解放された人々が自由に働き、豊かな物を買って、レジャーを楽しめる場所も都市でした。

しかし、こうした都市の光の一方で都市はものすごく住みにくい。北海道から戻ったら実感しました。

21世紀に入って一般的に先進国と言われている国々にも求めている成熟社会を迎えた今日は豊かさと幸せの質が求められる時代に入ってきました。それは中身が豊かで自然環境や食も含めて安心、安全が身近にあるということが大事ということです。身近にそれが考えられる時代にきました。子どもの数が少ないとかいろいろ言っているけれども、少なくなるのは歴史的必然だから人口増加なんかはあまり考えない方がいいと思います。



大事なのは訓子府で農業の後継者を育て、元気で明るい子どもがする地域を作ることだと思います。そしたらUターン者だけではなくIターン者もやってくるのではないのでしょうか。

【アンパンマンと地方自治の精神】

やなせたかしさんが94歳で亡くなった。アンパンマンを書いた人です。どうしてアンパンマンが子どもたちの心をとらえ続けるかという話を今日最後にしたいんです。やなせさんは子ども時代に非常に貧しくて大変ひもじい思いをしている時に、近所のおじさんがアンパンをちぎって食べさせてくれた思い出が下敷きにあってアンパンマンを生んだそうです。

僕は孫がいるのですが、孫に「なんでアンパンマン好きなんだ」と聞いたら、「だってアンパンマンはかわいいし優しいもん」と言うわけです。子どもの心に優しさが伝わるわけです。僕は21世紀の地方自治は優しさの時代だと思うんです。

優しさを地方自治の中で実現することだと思っています。アンパンマンに出てくる悪人たちも何となく憎めない。バイキンマンもドキンちゃんも。絶対悪の絶対善というのはアンパンマンの世界にはない。そして、登場するキャラクターはちょっとおっちょこちょいで、ちょっと悪いという世界で誰も死なないわけです。だから常にバイキンマンが出てくるわけ。

ここに込められた精神はすごい。アンパンマンが1番ヒーローになるのは悪いことをしているバイキンマンとかをちょっと退けたうえで絶対殺さない。あそこでは殺人が出てこない。その上でそこで傷つけられた人に自分の顔をちょっとちぎって、「これを食べたら元気が出るよ」とあげるのがアンパンマンの優しさなんです。

だけどアンパンマンは自分でそれを修復することはできないし、でも自分もちぎられたら辛いからそのままでは生きていけないわけです。だけど自分をちょっと傷つけて。あと身の丈に合わないことはやめた方がいい。だけど大地に根を張ったうえでちょっと背伸びする時はあっていい。アンパンマンは時々ちょっと背伸びをする。そしてちぎってあげる。



そういうアンパンマンを好ましく思う人たちがきちんといる。ジャムおじさんがいるじゃないですか。ジャムおじさんはきちんと彼の顔を修復してくれる。

そういう人と人との繋がりがお互いの良さを認め合って、支えあうのが実は自立と連帯だろうと。まさに自立と連帯の人間関係をアンパンマンの世界でやなせさんは描いたのではないかと僕は思うので、地方自治というのでもアンパンマンの精神でいきましょうということはどうぞ皆さん頑張ってください。終わります。

菊池町長

河合先生には足かけ7年ですけれども大変お世話になりました。くれぐれもお体を大切になさってもらい、また機会があればぜひ河合先生に来ていただいてお話をうかがいたいと思います。これで今日の会議を終わらせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。